

## 地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 3月 10 日
事業所名	グループホーム ゆたか
事業所番号	2372600730
記入者名	職名 管理者 氏名 田中 享子
連絡先電話番号	0 5 3 3—8 3—6 0 7 6

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者自身がこの地域で長年住んでいて、其の思いの中で立ち上げたホームであり運営理念として「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される、安全で明るくゆたかな家づくりを目指します。」と掲げて「笑顔で暮らすみんなの家」を大切に取組んでいます。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	毎月開かれる会議、ミーティングを通して、管理者はその人の思いを念頭に置きながら接して欲しいと職員に伝え、職員も周辺症状に対応だけでなく、入居者一人ひとり楽しいことや、興味を引き出すよう心がけています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取組んでいる	居間の入り口引き戸の上に「笑顔で暮らすみんなの家」と書いた木製の板を掲げ、居間にも「笑顔で暮らすみんなの家」と書いた家を模った板を掲げて常に確認でき、ホームの思いを伝えるようにしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くに散歩に出かけると声をかけてくださったり、洗濯物を干している時に散歩してきた人と顔見知りの入居者の方とフェンス越しにしばらく立ち話などしている光景が見られます。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っていて、回覧板をお隣に職員と届けたり、町内の草取りに参加したり、地域の防災訓練に職員と入居者と参加したり、お祭りには子供みこしがホームの庭まで来てくれ交流している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小規模デイを併設していることにより、利用者が地域の人で8割が認知症であるため家族からの相談を受けることもあり、対応はできている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする意義については職員全員に伝え実施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で評価について結果を報告しているだけが現状です。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現時点ではできていない		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者はすでに権利擁護を使っている利用者とかかわりをもっているため月一回対応している	○	事業所の取り組みとして学習会や、そのような研修があれば参加していきたい
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法が施行された時に研修にしているだけである。	○	事業所内の研修をやることが課題です

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居者・利用者その家族に対しては、契約書及び重要事項説明書を充分説明し同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には職員が聞き取るか、毎月の家族宛の手紙の中に意見等ないか尋ねる事もあり、入居者の方の意見は職員がら聞き取るよう取り組んでいる。	○ なかなか意見等は尋ねてみるも出てこないため、意見が出やすいように工夫することが今後の課題です。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書の送付時に、健康状態、一ヶ月づつの金銭出納書、暮らしの様子が分かる写真等印刷して送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見があれば必ず職員間で、周知徹底をして解決するよう取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、会議で職員の意見を聞きながら運営している。入居者の受け入れや、病院からの退院時期も相談しながら決めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者含め常勤4名夜勤専属パート含め8名合計12名の職員でシフトを組んでいますが昼中は4名いることも多く、入居者の状態や生活の流れを支援することはできている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者を受け持ち制にしていますが、新任職員が入ってきても直ぐには代わる事はしないで、馴染みの関係ができた時点で変わる配慮はしている		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	先輩職員が必要な知識・技能を日頃の介護現場にて伝え修得するようにしている。	○	新任職員には入居者の全般的な心理状態・身体状態を介護現場に入る前は看護師，介護士から伝えていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県のグループホーム連絡協議会に加盟し、連絡協議会が開催する研修会に職員を出席させ、他の事業者との連携体制をつくっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期的には職員の面接をして現状の把握をしている。	○	定期的に全員の個人面接をして職員のストレス、不満等把握して行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	開設当初から仕事に努力して頑張ってくれている職員にに対してはそれなりの評価をしている。	○	介護のその他の資格も取るように進めている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期には職員ができる限り交代でそばにつき、事前にいただいたバックグラウンドアセスメントシートをよく把握して不安の解消にあたり、安心して頂けるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅支援事業者のケアマネージャーからの紹介のときはケアマネからの情報をいただいたり、家庭訪問をして入居までには家族・本人の思いをよく聴き取る事に努めています。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の不安や、希望を良く聞き、認知症の家族会・地域包括支援センター・医療機関など紹介している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	小規模デイをホームの隣で併設しているため、いきなり入居するのではなく、そこで馴染みの関係をつくり入居に至ることもあります。その為デイとホームの居間の造りを同じように工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般を入居者と一緒に行っている。リビングで一緒に過ごす時間を作り一緒にTVを観たり、世間話をし、気持ちの交流ができる様努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と話し合い、どの様に支援していったらよいかを共に考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何でも事業所でやってしまうのではなく、家族でのかわりが必要なときは連絡を取り、訪問できる機会をつくり疎遠にならないように取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けない、家族との外出や帰宅の制限をもうけない、私物を自室に持ち込み家族等の写真等も飾ってある。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が全員リビングに集まり、10時、3時のおやつを楽しみ、体操をしたり、レクリエーションを行い楽しむ時間を設けている		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去しても家族の方が今でも季節ごとに庭にお花を植えて来てくださり、果物、野菜等届けてくださる方もあり、ホームではゆたか祭りにはご招待して交流をを持っています。	○	家族とのかかわりを大切にするため、お一人は昔からの行きつけの美容院まで家族とともに出かけている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは日々のかかわりの中から担当職員が細かく情報を得て、毎日行うミーティングの席で報告したり、申し送りノートにより情報を共有している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には事業所独自のアセスメントシートにより細部に聞き取り調査をし把握することに努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別記録へ日々の様子を記録し、勤務交代時に口頭でも申し送っている。又連絡ノートで必要事項の把握、ミーティング時に利用者の状況等共通認識を心がけている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の全体会議の後、計画作成会議を設け職員の意見等を聞き、介護計画に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の暮らしの中で各人の生活の様子を注意深く観察して、気づいたことは必ず申し送りノートに書き、確認のサインをして直ちに計画を見直すべきか、担当職員、計画作成担当者、看護師、管理者と交えての話し合いをし家族にも報告している。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりにファイルを作成し記録している。申し送り盤で現在の状態や検討することを話し合い介護計画の実践と見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現時点ではやっていない	○	要望あれば支援は可能でありやって行きたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今後の検討課題としている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今後の検討課題としている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後の検討課題としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム主治医に月1回の訪問診療を受けている。又利用者の状況に応じて眼科、歯科、総合病院の各科専門医への受診も主治医と連携しながら行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ主治医と連携を取りながら、専門医受診を進めて行く方針である。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護師を配置している。日頃の健康状態や、異常の早期発見、処置等主治医と連携を取りながら支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今後の検討課題としている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約の際に、どのような生活を希望するか、本人、家族の考えを確認している。終末期のありかたについては、それぞれの家族の考え方があり、状況に応じて対応して行く。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の検討課題としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	権利擁護事業にお世話になっていた入居者が退去する時にはそれぞれに関わる関係者により、十分な検討会をして別の居場所に問題なく移り住み事が出来ている事例もあり、現在もその方との関わりは、継続しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いに注意を払っている。言葉かけについてはプライバシーと、自尊心を守ることに心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	場面に応じて利用者の思いや希望を聞きように心がけている。本人の能力に合わせながら説明を行い、選択肢を提示する等支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々入居者のその日の状態を良く見極め支援している		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	従妹の美容師の所に3ヶ月に1回出かけられる為の支援をしている。又運営推進委員会がきっかけで町内の理・美容師の方のお付き合いができ、お願いすれば気持ち程度のお礼で全員のお手入れがお願いできる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に出かけたり、歯科の診療に出かけたりした時には、自分で支払うことの出来る方には支援をしている。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の状況に応じ、ゴミだし、買い物に、近くの神社のお参りの散歩 等、又喫茶店、美容院へ出かけたりと、戸外に出かける機会を多く設けている</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個々の希望はご家族と相談の上希望に添えるよう支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の方が家に、兄弟に、親戚等電話したい時にはして頂き、家族から贈り物が届いたときにはお礼の手紙を書くよう声掛け支援している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会の時間は設けず、本人の馴染みの人たちがいつでも訪問できる様に工夫している。訪問を受けた際には職員は笑顔で挨拶し、お茶、お菓子等をだし、お部屋にてゆっくり過ごして頂いている。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明示し、ファイリングしている。現在身体拘束はゼロであり今後も継続するよう取組んでいきたい。</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、門玄関に施錠はしていない、個々の状況に応じ見守る、付き添う等し、安全に配慮している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は一人ひとりの動ける範囲に応じ所在や、様子を確保している。夜間も定期的に訪室し、眠りを妨げない様、安否確認をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液、薬品、刃物は保管場所を決め保管している。日常の家事作業の洗剤等は必要量を出して置きそれ以外は目に触れない場所を定位置としている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルを作成しファイリングしている。又スタッフの間での情報交換を行い、状況に合わせた事故防止につながる支援を心掛けている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを作成し、緊急時は管理者、看護師、主治医への連絡が取れる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震等の災害を想定しての避難訓練の実施、町内会で行う防災訓練への参加することにより「ゆたかホーム」の存在を意識して頂けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	日々の記録には入居者のちょっとしたつぶやきを記録に残し、体調の変化により早く気づくように、毎日のミーティングには気になることは報告するよう職員一同心がけている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定をし個人記録に記入しその日の様子を口頭で申し送る。変化があれば管理者、看護師に連絡し情報の共有と、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋、配薬トレイに処方薬名と目的を明記し手居る。又処方薬一覧表でも確認できる。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事では野菜を多く摂取するよう栄養士が献立を作っている又お茶の時間や飲みたい時はいつでもお茶が飲めるように水分摂取を促している。家事作業等自然な体の動きで腸の動きを促している。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き、うがいを支援している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養士が献立を作成し、バランスの摂れた食事を提供している。又時々外食に出かけ、ホームとは違った雰囲気の中で食事をして頂く等、食べることを楽しむ支援を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染の有無は入居時の診断書で把握している。各感染症のマニュアルを作成しファイリングしてある。入居者、職員全員毎年インフルエンザの予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回のまな板消毒、布巾は専用の洗濯機で毎日洗濯し、管理者が飲み水にこだわり、不純物取り除く機械を外に付けてあり、台所に塩素取り除く浄水器をつけそれを飲み水として使っている。食材は専門の調理をする職員により食材の賞味期限等はその職員が管理して、食材の調達も職員が必ず鮮度の良いものを目で見ながら買ってきてい		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般住宅と同じ雰囲気玄関であり、庭の小道を通して中に入って行き、季節によって、飾りを工夫し、明るく親しみのある作りとなっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の壁等に季節の飾りや、絵を飾り居心地欲過ごせるように工夫している。リビングにはレースのカーテンを取り付け採光を調節している。トイレはリビングから少し離れていて流水の音等に配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食堂が続きになっており、皆の居る雰囲気を感しながら食卓テーブルでも一人になれる作りになっている。1階、2階の廊下にもソファが置いてあり、思い思いに利用できる。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたもの、家具や、家人が本人のことを考えて選んだものを持ち込んで頂き、見慣れたもの、家人の心のこもった物に囲まれて過ごしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには空気清浄機を置き、又季節により、除湿機、加湿器を置き、適時窓を開けて外気を取り入れ換気に努めている。個々の体調に応じ、衣類や、冷暖房で調節している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドに介助バーをつけ立ち上がりを自力で出来るようにしている。ベッドからの転倒リスクのある場合は布団や、マットレスを敷き各々の状況に応じた環境作りを心がけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ダンスや、衣装ケースには中に入っている物をラベルに書いて貼っている、今日の年月日もホワイトボードに日にちを紙で大きく作り貼っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には芝生はり、そこにベンチが置いてあり天候の良い日は庭に出て皆で歌を唄い、時には日曜日の昼食を庭で食べたり、散歩の帰りにベンチに座り一休みしながらお茶を楽しむ方もいる。又庭のプランターのお花にお水をあげる方もいる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「笑顔で暮らすみんなの家」を大切とし、年間行事を多くもうけ、楽しい時間を過ぎて頂きます。地域行事の参加など地域との交流に努めています。